

## 家の中の、陶のキノコたち

宮林 八男

毎日、キノコを身近で見たい、ときには触れてもみたい。大袈裟だが、家の中でキノコと暮らせないものか。こう思ったのは5年前に遡る。

生涯大学で陶芸を勉強していたとき、粘土

でかなり細密に成形し、色合いも出せることを学んだ。愚作だが、これまでに作陶したキノコに係るものを紹介したい。スライド会の小物展示での出品物と同じものも載せている。ご了承ください。



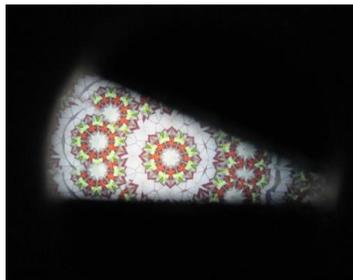
1. アミガサタケ I



2. アミガサタケ II



3. 万華鏡 I



4. 万華鏡 覗いた時の図柄



5. 万華鏡 II (制作中)



6. キヌガサタケ



7. ランプシェード



10. 大皿



11. 中皿

8. 鉢の中のブナシメジ (上)

9. 文鎮代りのブナシメジ (下)



12. 蓋付き器



13. 時計 I



14. 時計 II



15. メモ入れ



16. クリスマスツリー



17. 香焚き器



以上、十数点の写真を紹介したが、説明をつけ加えると・・・。

\* ----- \* ----- \*

■写真1、2

アミガサタケは春から秋にかけて庭や軒下に、冬場は机の周りや階段の隅に置く。

■写真3、4

テレイドスコープ。先端にビー玉が付いており、見るものが何でも万華鏡映像になる。キノコを覗けば怪しく変態した鮮やかな色彩のキノコがたくさん見られる。

■写真5

カレイドスコープのボディーとキャップ。キャップには石川雅之著『もやしもん』のキャラクターを引用描写。オブジェクトを万華鏡作家、Iさんが制作し組み立てれば完成となる。どんな作品になるのか楽しみにしている。

■写真6、7

キノガサタケをモチーフにしたランプシェード。草むらの中も良いが、側面に投射された模様がたまらない。

■写真8、9

ブナシメジの株立ち。いつもは観葉植物と多肉植物の鉢物の空き地に置く。また、レシートを仕分けする時など文鎮代わりに様変わり。毎日いじりまわしている。

■写真10、11、12

大皿、中皿、蓋付き器。この3点は眺めているだけ。まだ食器には使っていない。

■写真13、14

ふたつの時計。ともに市販の針を取り付けており、秒針がコチコチと響く。むき出しの針には違和感もあったが、慣れるとそうでもない。

■写真15

食卓テーブルと机上の2箇所にあるメモ入れ。夜は枕元に移動。ヤマドリタケモドキに見守られながら、就寝・・・。

■写真16

ナラタケのつまみを付けたクリスマスツリー。

■写真17

夏場、蚊よけのためなくてはならない香焚き器

\* ----- \* ----- \*

これら家の中のキノコたちを、じっと眺めていると、ほんのりした気分になる。キノコって、可愛いね。

作陶にあたり、陶芸家、清野先生に多くのご指導をいただきました。心から感謝申し上げます。

今後は、もっと身近なもの、ピンバッチやペンダントにも挑戦したい。そして、機会があれば『身に付けているキノコたち』と題し投稿しようと思っている。

(完)